

なつくもゆるる

NATSUMOYURURU

official starter book

すこしわかる なつくもゆるる



2013 SUMMER

■制作/すみっコぐらし ■企画/シナリオ/渡辺優一 ■原画/笹井さじ ■SDキャラ/イナリ ■背景美術/きゅるみい、加藤たいら ■BGM/SHIM (TGZ Sounds)
■OPムービー/steepwalker ■デザインワーク/KOMEWORKS ■企画・ディレクション・プロデュース/木緒なち



夏だからって、ゆるされない。

ストーリー

Natsukuru Story

壁川町にある、全寮制の学園。そこでは夏休みを前に、新型咽頭結膜熱が流行っていた。

病状が治まったのは夏休みの前日だが、体内にウィルスが残っている可能性があるため、感染した生徒達は学園に2週間残るように言い渡された。

せっかくの夏休みなのに外出禁止をくらった生徒は5名。その中の1人の当麻進は、くだらない理由で部屋を追い出され、深夜に敷地内を散歩していた。その最中に、体育館の裏でいきなり、謎の少女にスコップを喉元に突きつけられ……。

学園に残った女子生徒達はみんな背が低くて幼い外見。なぜ、そんな生徒ばかりが残ってしまったのか……。

学園の謎と自分達の謎に近づくに連れて、幼いことの意味がわかってくる。

女の子が幼いってどういうことなんだろう？

どうして幼いんだろう？……きっと、幼いことには意味がある。

閉鎖された学園での共同生活。廃墟と少女。セミの声。巨大な入道雲の夏。終わりのその先の先の物語。

Natsukuru Characters 『なつくもゆるる』キャラクター紹介



狭霧
Shiho
Sagiri
紫穂

黒いゴスロリ服を着て、スコップを持ち、
真夜中に学園の敷地内を徘徊する銀髪の少女。
突飛で異常な行動力を持ちながら、人見知りか激しい複雑な性格。
自分がいったい何者なのかわからない不安から、
自身でも理解できない謎の行動を繰り返してしまふ。
自分のせいで誰かが死んでしまふ、
という不安に取り付かれている。



当麻
Himeka
Touma
姫佳

主人公の妹。頭のいい女の子で、
些細なことから真相にたどり着いてしまうことがある。
学園に入ったきりで、ずっと家に帰ってこなかった
主人公に会うために遊びに来て、
事件に巻き込まれることになってしまふ。
兄ラブな妹で、とても素直な性格。



水名
Rina
Mizuna
りね

主人公が所属する生物部の部長。
わがままを言って、みんなを引っ張りまわす部長性格。
その一方で周囲に気を遣う性格でもある。
いつも、しっかりしないと、と気を張っているの、
一線を越えると簡単に落ち込んでしまふ。
学園の側にある潮溜まりを使って、
とある実験をしている。



鹿島
Yuuri
Kashima
ユウリ

金髪の生徒会長。
あまり誰とも喋らず、気を遣おうとしない、無愛想な性格。
生徒会長は誰もなりたがらない役職なので、
無投票でなることができた。
思ったことをズバズバと言って他人を傷付けることが多い。
いつも生徒会長室で
書類やネットにとらめっこをしている。

おためし版『よくわかるなつくる』

その内に公式サイトでも連載開始予定の『よくわかるなつくる』を、ここだけのおためし版として収録。『なつくる』のことがよくわかる、といいな。

【リネ】
「はじめてなり法隆寺！ 私の名前は水名りねだよ〜。生物部の部長なのさ。これからよろしくね！」

【姫佳】
「はじめて。私は当麻姫佳です。主人公の進さんの妹です」

【ユウリ】
「鹿島ユウリよ。生徒会長だわ」

【紫穂】
「さっ、さっ……んっ。はあはあはあはあ、さっ、狭霧紫穂だ。うっ、うっ、うわああああ！ ざいいやああ！ いやあああっ！」

【リネ】
「どっ、どうしたの？ 紫穂ちゃん？」

【姫佳】
「落ち着いてください。いったい何があったんですか？ 落ち着いて、落ち着いて」

【ユウリ】
「放っておけばいいわ。ゴスロリファッションなんかしてるんだから変な電波を受信して当然よ。ベタに世界の終わりの幻覚を見たりしただけよ」

【リネ】
「ゴスロリへの偏見が厳しすぎるよ、ユウリちゃん」

【紫穂】
「ひっ、はっ、はっ、いやああああああああっ！！」

【姫佳】
「落ち着いてください。このままだと狭霧さんの悲鳴だけでこのコーナーが終わってしまいます。お願いですから落ち着いてください」

【ユウリ】
「何も紹介せずに悲鳴で終わるのもおもしろいじゃない。私はここで悲鳴を聞いているから、あなた達もそうしたら？」

【リネ】
「アナーキーすぎるよ、ユウリちゃん！」

【紫穂】
「どっ、どっ、どうしてみんな落ち着いてられるんだ？ そんなおかしいじゃないか！ ほっ、本当に何もわかっていないのか？」

【姫佳】
「わかっていないとは、いったいどういうことですか？」

【紫穂】
「このコーナーが始まったということは、この中の誰かがみんなの前でお尻の穴に異物を入れてイカなきやいけないということなんだぞ」

【リネ】
「ひへっ？ そっ、それってどういう意味なのかな？」

【紫穂】
「これは作品紹介のコーナーなんかじゃないんだ。みんなの前でお尻をいじめられてアへ顔をさらす人を決めるコーナーなんだぞ」

【リネ】
「……そっ、そういえば聞いたことがあるよ。名も体も失ってアナルだけの存在になった人がいたって」

【姫佳】
「ええっ?! それはいったい？ えっ？ えええっ？ りっ、理解できません。想像だってできません！」

【紫穂】
「わっ、私はそんなに究極生命体になんかなりたくないんだぞ」

【リネ】
「わっ、私だってなりたくないよ！」

【姫佳】
「わっ、私も無理です！ だっ、だっ。お尻が、その……ぎっ、気持ちいいとか、そんなことってあるんですか？」

【ユウリ】
「……私がやるわ」

【リネ】
「ゆっ、ユウリちゃん？」

【ユウリ】
「話が先に進まないのってイライラするのよ。お尻に異物を入れて、みんなの前でアへ顔をさらすくらいのがなんだったのいうのよ」

【リネ】
「おっ、男らしいよ、ユウリちゃん！」

【ユウリ】
「話を先に進めたら？ それとも今から私のお尻に異物を入れるの？」

【姫佳】
「はっ、話を進めさせてもらいます。『なつくる』は全寮制の学園を舞台に、夏休みがこれから始まるタイミングで感染症にかかって、外出禁止を命じられた生徒達のお話です」

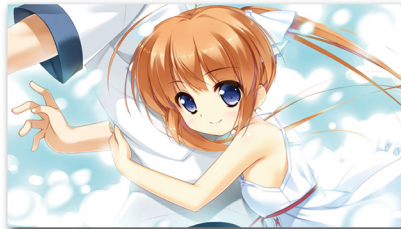
【リネ】
「最初は残されたみんなで仲良くやっていますが、いつの間にか不思議な事件に巻き込まれていることに気づいて、どうしよう?! というお話です」

【リネ】
「それではCGを見ていこー！ まずは姫佳ちゃんだよ〜！ 主人公の進くん後ろからがっちり抱きついてるね」

【姫佳】
「はい。妹らしさが表現された！ 枚なのではないかと思います」

【紫穂】
「……ふんっ」

【姫佳】
「どうして不機嫌そうにされているんですか？」



【紫穂】
「わっ、私なんか逆なんだぞ！ 私の方が凄いでからな！」

【リネ】
「うわっ、嫉妬だ。突然、女の嫉妬だ！ わくわくしてきたよ。どうなのかな？ どうなのかな？」

【ユウリ】
「……話を早く進めないと尻を出すわよ」

【リネ】
「だっ、出さなくていいよ。進める、進めるから。それでは、続いては紫穂ちゃんです！ うわ〜、エッチだね。後ろからイジイジされちゃってるよ」

【紫穂】
「あの男は私に対してはエッチだからな」

【姫佳】
「お兄さんは、私にだってエッチです！ お兄さんはみんなに対してエッチなんだからそんなことで自慢しないでください」

【リネ】
「まあまあ、喧嘩はダメだよ〜。それでは続いて私です」

【姫佳】
「うっ、うわ。すっ、凄くエッチじゃないですか」

【リネ】
「あははははっ。そっ、そうかな？ ちょっと、そのエッチすぎる感じはするかな？ あはははははっ。まあ、その……。私は胸が大きいし？」

【姫佳】
「うっ」

【リネ】
「別に嫌味じゃないけど胸が大きいから。困ってるんだー。胸が大きいから、ちょっとくらいエッチな方が似合うよね」

【紫穂】
「胸、胸、言うなあ！」

【リネ】
「ごめん。みんなの胸が小さいって言いたいわけなんだよ」

【姫佳】
「普通、そこは、言いたいわけじゃないんだよ、です！」

【ユウリ】
「放っておけばいいのよ。これはロリゲーよ。胸が大きいということは不人気決定ということ」

【リネ】
「ええっ?! そっ、そうなの？」

【ユウリ】
「あいっさいいなければ！ 0点とか、リネがいるから！ 0点減点とか言われる哀れな存在よ」

【リネ】
「ユウリちゃんはあたりが強すぎるよ！ じゃ、もう次はユウリちゃんなんだから。うあっ？」

【紫穂】
「縛られて棒状のモノをいられちゃってるんだぞ。こっ、こんなことされて怖くないのか？」

【ユウリ】
「怖くないわよ。私は縛られて異物を入れられると感じる体質だから」

【リネ】
「いろいろとぶっチャけすぎだよ！ もっと恥ずかしそうにした方が好感度が高まるんじゃないか……」

【ユウリ】
「そういう媚びた考えは嫌いだよ」

【姫佳】
「そんなに反抗的にならなくても……。そろそろ今回は終わりですけど……」

【リネ】
「あっ、えっと……。発売はまだ先ですけど、それまでホームページの方でいろいろと情報を発信していきますので、チェックしてくださいね」

【紫穂】
「発売を楽しみにして待たせろ」

【姫佳】
「がんばりますから応援よろしくお願いします」

【ユウリ】
「それでは最後に、みなさん地獄へ落ちてくださいな」

【リネ】
「ユウリちゃん、どうしてそんなに反抗的なの？」

〜つづく〜

